

平成 23 年度 森林総合研究所営事業 事後評価 技術検討会  
農用地総合整備事業「大隅中央区域」 議事概要

1. 実施日 平成 23 年 7 月 29 日(金) 16:00 ~ 18:00

2. 場所 農林水産省 農村振興局 第 4 会議室

3. 出席者 技術検討会委員 浅野 耕太 京都大学教授  
安藤 光義 東京大学准教授  
落司 ひとみ 設計事務所「オーエイトプラン」代表  
山路 永司 東京大学教授

(敬称略、五十音順)

事務局等 農林水産省農村振興局整備部農地資源課調査官 他

(独)森林総合研究所森林農地整備センター審議役 他

4. 技術検討会の概要

(1) 委員長選出

委員長に山路委員を選出した。

(2) 事後評価(案)について事務局より説明。

(3) 意見・指摘等

技術検討会の意見として、次のとおり取りまとめられた。

(全体)

日本の旺盛な胃袋を支える九州南部、大隅中央区域における土地利用型農業のさらなる展開のために、本事業によって実施された土層改良、暗渠排水、区画整理および農業用道路は、生産性の維持・向上に寄与するものであり、総合的に高く評価できる。

(農用地整備)

農用地整備実施地区において、耕作放棄地は見られず、事業効果が発現している。特に土層改良については、工事を一団として行う必要があるため、それを契機に貸借が進むという効果が付随している。

また、ほ場間での生育の差が解消され、作業の効率化、肥培管理水準の向上、および品質の均一化が実現した点も評価できる。

(農業用道路)

事業の中核である道路については、その路線配置は的確であり、計画以上の通行

が認められ、地域の農業関連あるいは非農業関連の利便性を飛躍的に向上させるとともに、畑地かんがい整備事業等他の事業の効果を高めている。

特にお茶栽培については、収穫作業が加工処理工場の生産工程に密接に関係しているため、輸送の効率化、迅速化の面から本農業用道路が果たしている役割は大きい。また、鹿屋市内の畜産関係者にとっては飼料配送の効率化が図られている。

さらに道路ネットワークが密になったことにより、避難路が複線化し減災面での効果が期待される。

なお、大隅グリーンロードは地域の人にはよく知られているが、各種地図にその愛称の記載を求め、一層の周知を図るべきである。

(まとめ)

本区域においては、大規模農家が集積し、作物の品質を高め、加工販売する拠点が出来ており、今後、地域農業構造の革新が期待される。農道整備は農業経営間の連携を強化するための条件整備という意味合いを有している。

高齢化および担い手の不足の懸念があるが、大規模化・高品質化を追求した製茶工場、巨大な飼料工場、少ないながらも着実な新規就農者など、地域の元気さを感じることができた。

また、利益追求は重要であるが、「新しいことにチャレンジ」して従業員や連携農家のモチベーションを高めることで、経営の持続的な発展が可能になり、地域経済全体に与える効果も大きなものとなる。

やりがいのある農業を地域で実現するためには、生産者、販売者および行政が一緒になって勉強をし、本気で取り組むことが重要である。そして、大隅において日本の食糧を支える人を地域で迎える体制を作ることが必要である。

(以上)